

施策評価シート

幹事部局

健康福祉部

施策の名称	V-2-(2) 高齢者の活躍推進
施策の目的	人生100年時代を見据え、高齢者が生きがいを持って地域の支え手として活躍できる社会を目指します。
施策の現状 に対する評価	<p>①(高齢者の学びを地域活動に繋げる仕組みづくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くにびき学園修了生28名と、ボランティア活動などの活動を通じ地域づくりに貢献されている学園卒業生23名に「わが島根(まち)づくりマイスター」の称号を授与することで地域づくりの機運の醸成に寄与した。 ・くにびき学園修了生が、担い手を求める地域で継続して活動している事例がまだ少ない。 ・島根県老人クラブ連合会では、住み慣れた地域で住民同士が支え合い、安心して生活できる地域社会づくりに向けて、豊かな知識と経験をもつ地域福祉の担い手を育成することを目的に、「健康づくり推進員」を養成しており、高齢者の介護予防や孤立防止に向けた互助の取組が進んでいる。 ・市町村の老人クラブのクラブ数及び会員数が減少傾向にあることが課題である。 <p>②(生涯現役の機運醸成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現役で活躍する健康な100歳長寿者や75歳以上で生産活動やボランティア活動等を行っている高齢者を顕彰することにより、高齢者はもとより、広く県民の生涯現役の意識づくりに寄与できた。 ・生涯現役証は、協賛店舗や市町村を対象とする広報に加え、協賛店舗へのポスター配布や高齢者向けタブロイド紙による広報を実施することで、取組の周知が進んだことにより、生涯現役の意識づくりにも寄与できた一方、生涯現役証の協賛店舗は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた廃業などにより減少する傾向にある。 <p>(前年度の評価後に見直した点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くにびき学園入校生の募集を従来の広報に加え、県広報(ラジオ・テレビ)を活用し、高齢者、その家族への周知を強化した。
今後の取組 の方向性	<p>①(高齢者の学びを地域活動に繋げる仕組みづくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くにびき学園の活動を高齢者及びその家族に広く周知するため、引き続きタブロイド紙、ラジオ・テレビ等により広報をする。また、公開講座のオンライン開催などを通じ、くにびき学園の活動に関心をもってもらう取組を行う。 ・くにびき学園にコーディネーターを配置し、地元市町村、くにびき学園運営協議会の構成団体(福祉関係団体、社会教育関係団体、就労支援団体等)と連携し、修了生と担い手を求める地域や団体とを繋ぐ取組を推進する。 ・老人クラブが行っている地域貢献活動等を高齢者向けタブロイド紙(しまねすまいるDays)等の広報媒体で周知し会員の増加に繋げる取組を行う。 <p>②(生涯現役の機運醸成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者向けタブロイド紙や企業との包括業務連携協定などを活用し、高齢者はもとより全世代に向けた健康長寿や生涯現役などの広報啓発を強化していく。 ・生涯現役の取組を多くの事業者に周知し協賛店舗の拡大を図るため、地域に密着した商工会等の会報に協賛店舗募集の折り込みを行うなど、協賛店舗の増加につなげる取組を行う。

事務事業の一覧

施策の名称	V-2-(2) 高齢者の活躍推進
-------	------------------

	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	生涯現役社会づくり推進事業(県民意識啓発)	県民	心身ともに健康で社会的な関わりを持ち続けながら生活している高齢者に対する認定証の交付や顕彰を通じて、生きがいづくりと健康づくりへの意識を高める。	5,176	5,293	高齢者福祉課
2	互助の仕組みづくり推進事業	老人クラブをはじめとする地域で活躍する高齢者グループや個人	地域社会の担い手として活躍するなど、活動が活性化し、新たな組織化を行う。	51,471	51,976	高齢者福祉課
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

高齢者福祉課

事務事業の名称		生涯現役社会づくり推進事業(県民意識啓発)			
目的	誰(何)を対象として	県民	事業費 (千円)	令和4年度の実績額	令和5年度の当初予算額
	どうい状態を目指すのか	心身ともに健康で社会的な関わりを持ち続けながら生活している高齢者に対する認定証の交付や顕彰を通じて、生きがいづくりと健康づくりへの意識を高める。		5,176	5,293
			うち一般財源 (千円)	230	312
令和5年度の取組内容	生涯現役証:75歳以上の高齢者の生きがいと健康づくりへの意識の高揚を図るため、75歳を過ぎても生産活動やボランティア活動を行っている者に交付。 健康超寿者表彰:高齢者の生きがいと健康づくり意識の向上を図るため、100歳以上の現役で活躍する健康な長寿者を顕彰。 高齢者活躍推進情報発信事業:高齢者の活躍推進を進める機運醸成を図るため、健康長寿や生涯現役等の関係事業の情報発信を実施。				
令和4年度に行った評価を踏まえて見直したこと	高齢者向けタブロイド誌(しまねすまいるデイズ)や県民だより、県政情報コーナーによる広報を実施。				
1	上位の施策	V-2-(2) 高齢者の活躍推進	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	県政世論調査で現在喜びや生きがいを感じているものがあると回答した70歳以上の者の割合【当該年度8月時点】	目標値		89.0	89.0	90.0	90.0	91.0	%	単年度値
		実績値	84.2	84.0	79.3	82.1				
		達成率	—	94.4	89.2	91.3	—			
2	生涯現役証交付者数【当該年度3月時点】	目標値		3,700.0	4,100.0	4,500.0	4,900.0	5,300.0	人	累計値
		実績値	3,306.0	3,577.0	3,778.0	3,893.0				
		達成率	—	96.7	92.2	86.6	—			
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・生涯現役証総交付者数(R5年3月末現在):3,893人 ・県内の75歳以上の高齢者の人口(R4年10月1日現在):124,847人、75歳以上人口に占める交付割合:3.1% ・健康超寿者表彰数(R4年度):6名(総表彰数:79名(H18~)) ・悪徳商法等の高齢者向け研修会や啓発活動等の実施回数:96回								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・生涯現役証の周知・利用促進に向け高齢者向けタブロイド紙等で広報を行った。 ・現役で活躍する健康な100歳以上の長寿者を顕彰することができ、高齢者はもとより、広く県民の生涯現役の意識づくりに寄与できた。
課題分析	① 課題	ア)生涯現役証の発行割合は75歳以上の方の約3.1%という状況であり、広がりを欠いている。また、生涯現役証の交付枚数は、前年より減少している。(R3:201人 → R4:115人) イ)国にも100歳の高齢者に一律に記念品等を贈呈する事業があり、元気な100歳以上の高齢者という県事業の趣旨が分かりにくくなっている。
	② 原因	ア)生涯現役証交付事業の目的や仕組みの認知が不十分である。 イ)県の顕彰事業の趣旨(長寿であることはもとより現役で活躍していること)が十分に発信されていない。
	③ 方向性	ア、イ)生涯現役証、健康超寿者表彰ともに、魅力的な取組となるよう、より効果的かつ効果的なPRとなるよう、高齢者向けタブロイド紙や企業との包括業務連携協定にかかる協働取組、商工会議所のPR誌での広報などを活用し、一体的な広報を行う。 ア、イ)生涯現役証について、情報発信と一体的に実施することで、より効果的に生涯現役の機運醸成を図るため、引き続き民間委託の可否を検討する。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

高齢者福祉課

事務事業の名称		互助の仕組みづくり推進事業			
目的	誰(何)を対象として	老人クラブをはじめとする地域で活躍する高齢者グループや個人	事業費 (千円)	令和4年度の実績額	令和5年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	地域社会の担い手として活躍するなど、活動が活性化し、新たな組織化を行う。		うち一般財源 (千円)	51,471
令和5年度の取組内容	①老人クラブの助成、②老人クラブ等活動推進事業：老人クラブ活動の活性化を図るため、県老人クラブ連合会に対して推進員の設置や活動に必要な経費を支援。市町村老人クラブ連合会の活動支援を通じて高齢者の社会参加の促進を図る。 ③高齢者大学校運営事業：くにびき学園を適切に運営し、継続的な学習の場を確保するため、県社会福祉協議会に対し、運営に係る経費を補助。 ④健康福祉祭運営事業：県健康福祉祭の開催と全国健康福祉祭への選手派遣を円滑に行うため、県社会福祉協議会に対し、県大会開催や派遣に係る経費を補助。				
令和4年度に行った評価を踏まえて見直した点	高齢者向けタブロイド紙等(しまねすまいるdays)により学園の取り組みの紹介や学生募集等の広告(テレビ・ラジオ等)を実施。くにびき学園運営協議会を東部・西部にそれぞれ設置し、担い手を求める地域や団体とを繋ぐコーディネーターをセッ。また、令和4年度修了生から「わが島根(まち)づくりマイスター」の称号を授与し、地域づくりの機運醸成を図った。				
1	上位の施策	V-2-(2) 高齢者の活躍推進	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	くにびき学園入学者数【当該年度9月時点】 ※カリキュラム見直し等のため令和元年度は募集停止	目標値		75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	人	単年度値
		実績値	0.0	56.0	33.0	33.0				
		達成率	—	74.7	44.0	44.0	—	—	%	
2	県政世論調査で地域の課題解決やまちづくりに関する講演会・研修会に参加したり、地域で実践活動に取り組んでいると回答した70歳以上の者の割合【当該年度8月時点】	目標値		42.0	45.0	47.0	50.0	50.0	%	単年度値
		実績値	39.5	32.2	28.9	27.5				
		達成率	—	76.7	64.3	58.6	—	—	%	
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・地域社会の中核的な高齢者グループである老人クラブの活動や、地域活動の担い手となる高齢者の育成及び高齢者スポーツ・文化活動に対する支援を行っている。 ・県内の単位老人クラブ数：729クラブ(R5.3.31現在)、県内の単位老人クラブ会員数：27,556人(R5.3.31現在) ・令和2年度の新しくくにびき学園設置に伴い、令和元年度の学生募集を停止したため、R1実績値0。 ・健康福祉祭が3年ぶりに神奈川県で開催され105名が参加。卓球では総合優勝したほか、他の競技でも好成績を収めることができた。								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・老人クラブ数及び会員数は減少しているが、健康づくり推進員(介護予防、閉じこもり予防など地域の高齢者に対する健康づくり活動を推進する実践者)は毎年度養成しており、年々増加している。 ・くにびき学園の在学学生、卒業生による地域貢献活動、同窓ネットワーク組織の活動が実施された。
課題分析	①課題	ア)くにびき学園卒業生が、担い手を求める地域で継続して活動している事例がまだまだ少ない。 イ)一部の老人クラブを除き、活動が衰退してきている。 ウ)健康福祉祭の参加者が特定の個人や団体に固定化しつつある。
	②原因	ア)くにびき学園の卒業生を地域活動の担い手と捉え、地域に繋ぐ仕組みが不足している。 イ)老人クラブに必要な人材の確保ができていない。 ウ)健康福祉祭の認知度を高める取り組みや、意義を伝える取り組みが不足している。
	③方向性	ア)わが島根づくりマイスターの称号授与や、くにびき学園運営協議会やコーディネーターを活用したフィールドワークやタウンミーティングなどを通じて、卒業生と担い手を求める地域や団体に繋ぐ取組を推進する。 イ)地域の助け合い活動や地域住民の互助のつながりの場において、島根県老人クラブ連合会等の関係団体と連携し、老人クラブが行っている地域貢献活動等を高齢者向けタブロイド紙(しまねすまいるDays)等の広報媒体で周知し会員の増加に繋げる。 ウ)健康福祉祭のうち美術展の選考方法について、より多くの高齢者が参加できるよう、現行の市町村老人クラブからの推薦方法から新たな選考方法を検討する。引き続き、老人クラブが関わるような選考方法とする。